

"今回の解説書の作成には㈱デバイスドライバーズ様の支援を得ました。"

詳細情報 : <http://www.devdrv.co.jp/package/cogentdatahub.html>



目次

1. はじめに.....	5
1.1. 本書の目的.....	5
1.2. 本書の使い方.....	5
1.3. 対象者.....	6
2. DataHub WebView の使い方.....	7
2.1. タイトル.....	7
2.2. 概略説明.....	7
2.3. 対象者.....	7
2.4. ゴール.....	7
2.5. 学習前の注意.....	7
2.6. ビデオ内容紹介 : DataHub WebView の使い方.....	8
2.6.1. WebView の起動方法.....	8
2.6.2. DataHub アプリケーションの起動.....	8
2.6.3. WebView の起動とデモの実行手順.....	8
2.6.4. 管理者ログイン.....	9
2.6.5. 編集モード画面とランモード画面間の移動.....	9
2.6.6. WebView の終了.....	9
2.6.7. スタートページの設定方法.....	10
2.6.8. ランモードから編集モードへの移動.....	10
2.6.9. ブラウザからの WebView 起動.....	10
2.6.10. オペレーターのログイン.....	11
2.6.11. キヨスクモードの終了とユーザーの変更.....	11
2.6.12. 開発者としてのログイン.....	11
3. WebView 画面編集機能.....	13
3.1. タイトル.....	13
3.2. 概略説明.....	13
3.3. 対象者.....	13
3.4. ゴール.....	13
3.5. 学習前の注意.....	13
3.6. ビデオ内容 : WebView 画面編集機能.....	14
3.6.1. 編集画面の説明.....	14
3.6.2. コントロールの配置.....	14
3.6.3. リストからのコントロール配置.....	15
3.6.4. コントロールのマニュアル配置.....	15
3.6.5. 編集ページの変更.....	15
3.6.6. 新規ページの作成.....	16
3.6.7. キャンバスの背景画像.....	16

3.6.8.	編集ページの保存	17
3.6.9.	保存したページの確認	17
3.6.10.	データの関連付け	17
3.6.11.	ランモード画面の確認	18
3.6.12.	ランモードのオプション設定	18
4.	ユーザー・ログインの権限設定	20
4.1.	タイトル	20
4.2.	概略説明	20
4.3.	対象者	20
4.4.	ゴール	20
4.5.	学習前の注意	20
4.6.	ビデオ内容紹介：ユーザー・ログインの権限設定	21
4.6.1.	セキュリティ設定画面の表示	21
4.6.2.	オペレーター・グループの新規作成	21
4.6.3.	オペレーター・ユーザーの新規作成	22
4.6.4.	デザイナー・グループの新規作成	22
4.6.5.	デザイナー・ユーザーの新規作成	23
4.6.6.	オペレーター・ユーザーのログイン	23
4.6.7.	デザイナー・ユーザーのログイン	24
5.	DataHub WebView ランモード	25
5.1.	タイトル	25
5.2.	概略説明	25
5.3.	対象者	25
5.4.	ゴール	25
5.5.	学習前の注意	25
5.6.	ビデオ内容紹介：DataHub WebView ランモード	26
5.6.1.	学習内容	26
5.6.2.	PID コントロール	26
5.6.3.	Setpoint の変更	27
5.6.4.	クラウドサーバーの Cogent DataHub の利用	27
5.6.5.	インタラクティブなページ	28
5.6.6.	データのリアルタイム表示	28
5.6.7.	Silver light による高品質なグラフィックス表示	29
5.6.8.	シンボル：Input Controls	30
5.6.9.	シンボル：Linear Gauges	30
5.6.10.	シンボルの背景画像	31
5.6.11.	様々なシンボル	31
5.6.12.	Trend Chart による時系列データ表示	31

5.6.13.	タンク内容量の危険検知	32
5.6.14.	複雑なデモ・ページ	33
6.	編集モードの基本	34
6.1.	タイトル	34
6.2.	概略説明	34
6.3.	対象者	34
6.4.	ゴール	34
6.5.	学習前の注意	34
6.6.	ビデオ内容紹介：編集モードの基本	35
6.6.1.	学習内容	35
6.6.2.	クラウドサーバーの Cogent DataHub の利用	35
6.6.3.	新規ページの作成	36
6.6.4.	コントロール・バー	36
6.6.5.	コントロール・タブ	37
6.6.6.	コントロールのプロパティ	38
6.6.7.	キャンバスのプロパティ	39
6.6.8.	コントロールの操作	39
6.6.9.	グリッド	40
6.6.10.	ズーム	41
6.6.11.	コントロールのグループ化	43
6.6.12.	隠れている画像の選択	44
6.6.13.	編集モードとランモード	45
6.6.14.	2つのランモードオプション	46
6.6.15.	情報アイコンページ	47

1. はじめに

1.1. 本書の目的

本解説は、Cogent 社が提供する先進的なデータ・コンバイン機能とリモート HMI(Human Machine Interface) 環境を提供する Cogent DataHub 7 の基本的な使い方をビデオで学習するための手引きとしてご利用頂くことができます。

Cogent 社では、Cogent DataHub 7 の利用方法を以下のホームページで公開していますが、残念ながら説明は全て英語になっています。そこで日本の方でもこれらのビデオを見ながら DataHub 7 の使い方を知って頂けるように、ビデオ解説の要点やビデオではわかり難い点を中心に日本語で説明しています。また本書は単なる英文ビデオの翻訳や要約ではありません。操作の説明には日本語版の DataHub を元に用語を書き換え、ビデオでは紹介しきれない内容や注意点、補足情報を追加して、より一層理解を深めることができるように配慮して作成しています。

DataHub ビデオ公開ページ: http://www.cogentdatahub.com/DataHub_Videos.html

1.2. 本書の使い方

この解説では、公開されているビデオの中から、Cogent DataHub 7 の特長的な機能であり、初心者にも利用しやすい DataHub WebView の利用方法に関して、次の基本的な内容を取り上げています。

DataHub WebView Quick Reference Videos

2. [Starting DataHub WebView.](#) (9:09)
3. [WebView Editing Interface.](#) (5:52)
4. [Configuring user login permissions.](#) (8:06)

DataHub WebView Training Videos

1. [Introduction to WebView Run Mode.](#) (18:49)
2. [Design Mode Fundamentals.](#) (29:05)

本書はもちろん自由にご利用頂いて構いませんが、主に次に挙げるような使い方を想定しています。

① 自己学習

ビデオを再生しながら同時に本書を手引きとして参照頂くことにより、DataHub の理解を一層深めることが可能になります。同時に PC で実際に DataHub を操作すると効果的です。

② グループ学習やセミナーのテキスト

セミナー等でビデオを少しずつ再生しながらグループ学習する場合には、本書をテキストとしてご利用頂けます。同時に PC で実際に DataHub を操作することで、より早く利用法をマスターすることができます。

③ 速習用教材

短期間で DataHub WebView の操作を習得する必要がある場合にも効果的に利用できます。ベテランの講師が必要部分のビデオと合わせて本書の一部を学習教材として利用することで、オペレーターやデザイナー養成のための速習用教材としてもご利用頂けます。

④ 既存ユーザーの確認用

すでに DataHub をご利用頂いているお客様にとっても、本書を最初から読み直すことにより、見落としていた思わぬ利用方法が見つかるかも知れません。既存の利用者にとっても役立つツールとしてご利用頂けるように、内容を工夫しています。

1.3. 対象者

このように本書は、基本的には Cogent DataHub WebView を初めて使う方や DataHub WebView の初心者を対象とはしていますが、すでにご利用頂いている方にとっても興味を持って頂ける最新の内容まで網羅しています。DataHub WebView に興味を持って頂ける方にとって、少しでもお役に立てれば幸いです。

それでは早速次章以降で、ビデオ解説しながら DataHub WebView の素晴らしい世界にご案内します。

2. DataHub WebViewの使い方

2.1. タイトル

原題: Starting DataHub WebView (時間 9 分 9 秒)

所在: <http://www.cogentdatahub.com/Demos/StartWebView/StartWebView.html>

2.2. 概略説明

Cogent DataHub の主要な GUI 表示ツールである DataHub WebView に関する基本的な使用方法を解説します。DataHub の 2 種類の起動方法 (DataHub WebView の DataHub アイコンからと、ブラウザからの起動)、ランモード (Run Mode) と編集モード (Design Mode)、デモ画面の表示、メニュー、起動オプション設定などの基本的な使い方を説明します。

DataHub WebView を初めて使用する方は、最初にこのビデオを見て学習して下さい。

2.3. 対象者

Cogent DataHub WebView を初めて使う方、及び DataHub WebView の初心者

2.4. ゴール

DataHub WebView の起動方法、終了方法をはじめとする基本的な操作方法を習得します。

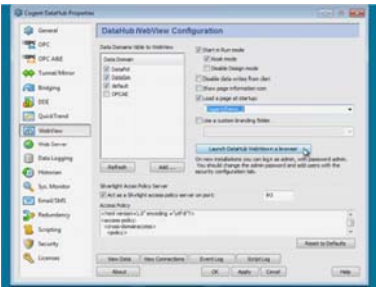


2.5. 学習前の注意

Cogent DataHub のインストールを完了させて「**Cogent DataHub**」「**DataSim**」「**DataPid**」のショートカット・アイコンをデスクトップに表示させておいて下さい。

2.6. ビデオ内容紹介 : DataHub WebViewの使い方

ビデオ画面 (時間)	解説
 0:00-0:41	<p>2.6.1. WebView の起動方法</p> <p>DataHub WebView を起動する方法は次の 2 種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Cogent DataHub からの起動 (開発者向け) ● ブラウザからの起動 (エンドユーザ向け)
 0:42-1:13	<p>2.6.2. DataHub アプリケーションの起動</p> <p>「Cogent DataHub」「DataSim」「DataPid」を順にダブルクリックして、各プログラムを起動します。</p> <p>「DataSim」「DataPid」はそれぞれ、デモで使用するテスト用データを発生するシミュレーション・プログラムです。これらの画面はここでは使わないので、起動後すぐに右上ボタンを操作して、最小化しておきます。</p>
 1:14-1:41	<p>2.6.3. WebView の起動とデモの実行手順</p> <p>デスクトップ右下のタスクバーに表示されている歯車型の「Cogent DataHub」アイコンをダブルクリックするか、右クリックしてメニューを表示させ、「プロパティ」を選択します。</p> <p>Cogent DataHub プロパティのメニューが表示されるので「WebView」アイコンをクリックします。</p> <p>WebView のスタートオプション (DataHub WebView 設定) が表示されるので、その中の「ブラウザ上で DataHub WebView 起動」ボタンをクリックして少し待つと、WebView ログイン画面が起動します。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>1:42-2:04</p>	<h3>2.6.4. 管理者ログイン</h3> <p>Username: admin Password: admin と入力後「Connect」をクリックしてログインします。</p> <p>WebView スタート画面（編集モード画面）が起動します。</p>
 <p>2:05-3:31</p>	<h3>2.6.5. 編集モード画面とランモード画面間の移動</h3> <p>編集モードとは？ デザイナーがページをデザインする画面モード。 Design Mode Fundamentals のビデオで紹介します。</p> <p>ランモードとは？ オペレーターやエンドユーザーが使用するページの画面モード。スタートページではメニューボタンをクリックして「Tank Level」等の他のページに移動できます。「Page Index」のボタンをクリックすると元のページに戻ります。</p> <p>ランモード画面へ 編集画面メニュー画面の上部にあるツールボックスの「 グリーンの右矢印」(Enter Run Mode)をクリックするとランモード画面になります。ランモード画面では編集モードとは異なる形式の表示画面となります。</p> <p>ランモード画面から編集モード画面へ ツールバー上の「」(Exit Run Mode)をクリックします。</p>
	<h3>2.6.6. WebView の終了</h3> <p>WebView はブラウザを画面右上の「X」をクリックしてブラウザを閉じることで終了します。この時に「このページから移動しますか？」の警告メッセージが出力されます。編集中の保存するページがないことを確認して「OK」または「このページから移動」をクリックすると終了します。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>3:32-4:24</p>  <p>4:25-5:09</p>	<h3>2.6.7. スタートページの設定方法</h3> <p>Cogent DataHub プロパティメニューの DataHub WebView 設定メニューを開きます。</p> <p>「ランモード開始」にチェックして、「キヨスクモード」にチェック。</p> <p>「起動ページ実行」の所で起動設定させたいデモメニューを選択します。ビデオでは「Cogent/Demo_2」を選択しています。</p> <p>「ブラウザ上で DataHub WebView 起動」をクリックします。</p> <p>ログイン画面で password を「admin」と再度入力します。この場合は、起動と同時に Cogent Demo_2 のランモード画面がスタートページとして表示されます。</p> <p>キヨスクモードとは？</p> <p>キヨスクモードは、WebView にエンドユーザーとしてログインして各種操作を行うモードです。誤作動を防ぐため、メニューバーやツールバーがありません。また表示画面を変更することもできません。</p>
 <p>5:10-5:29</p>	<h3>2.6.8. ランモードから編集モードへの移動</h3> <p>編集モードへの移動は「Ctrl+Shift+R」のキーを同時に押して下さい。</p> <p>注意：このファンクション・キーで移動できるのは、編集モードの利用権限があるユーザーだけです。</p>
	<h3>2.6.9. ブラウザからの WebView 起動</h3> <p>ブランクのブラウザを開いて、DataHub が稼働しているマシンの WebView の URL を入力します。ビデオでは「http:192.168.3.20/Silverlight/DataHubWebView.asp」と入力しています。</p> <p>注意：このような起動方法はエンドユーザーの利用に適しています。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>5:30-6:29</p>	<h3>2.6.10. オペレーターのログイン</h3> <p>あらかじめ登録してあるオペレーター（エンドユーザー）のアカウントを以下のように入力します。</p> <p>Username: 「user1」と入力 Password: 「????」（あらかじめ設定してあるパスワード）を入力し「enter」キーを入力します。</p> <p>注意： ユーザーの作成と権限の管理は「ユーザー・ログインの権限設定（Configuring user login permissions）」の説明を参照して下さい。</p> <p>ビデオでは設定してある別のランモード画面が表示されています。この状態では、エンドユーザーとしてログインしているため「Ctrl+Shift+R」のキーを入力しても、編集画面へは戻りません。</p>
 <p>6:30-8:16</p>	<h3>2.6.11. キヨスクモードの終了とユーザーの変更</h3> <p>キヨスクモードを終了してユーザーを変更するためには、ブラウザの「リロードボタン」をクリックして、再びログイン画面を表示させます。この時に「このページから移動しますか？」の警告メッセージが出力されるので、了解します。</p> <p>この操作によりエンドユーザー権限でのログイン状態を終了して、ログアウトします。</p>
 <p>8:16-9:09</p>	<h3>2.6.12. 開発者としてのログイン</h3> <p>ビデオではあらかじめ登録してある開発者のアカウントを以下のように入力します。</p> <p>Username: 「dev1」と入力 Password: 「????」（あらかじめ設定してあるパスワード）を入力して「enter」キーを押します。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
	<p>開発者はすべての権限があるため、「Ctrl+Shift+R」のキーで編集モードに移行できます。編集モードで変更したものを保存すると、ブラウザを通じて直ちに他の利用者たちにはその変更が反映されて利用できるようになります。</p> <p>注意：ユーザーの作成と権限の管理はユーザー・ログインの権限設定（Configuring user login permissions）を参照して下さい。</p> <p>DataHub や WebView を利用するための詳細情報は以下のページにある、オンライン・マニュアルを参照して下さい。</p> <p>http://www.cogentdatahub.com/Documentation.html</p>

3. WebView画面編集機能

3.1. タイトル

原題:WebView Editing Interface (時間 5 分 52 秒)

所在:

<http://www.cogentdatahub.com/Demos/EditingInterface2/EditingInterface.html>

3.2. 概略説明

DataHub WebView の画面編集機能に関する基本的な解説です。WebView ページの画面編集を行うキャンバス上のページに、コントロールを配置、調整してページを作成して行きます。個々の、要素やコントロールの詳細な設定には編集画面の右にあるプロパティの機能を使用します。

注意：コントロールとは一般にはカスタム・コントロールとも呼ばれる、GUI を構成するためにあらかじめ用意された画像データの部品です。操作やデータの値によって表示画像を変化させ、あるいはユーザーが操作するためのボタン、スイッチ、ダイヤル等の画像を提供するといった、データや操作と関連付け可能な画像データです。DataHub WebView では、このようなコントロールのうち実際の操作対象となる機器の形状に似せたデザイン画像を「シンボル」とも呼びます。

3.3. 対象者

DataHub WebView の編集機能を初めて使う方、及び DataHub WebView の初心者

3.4. ゴール

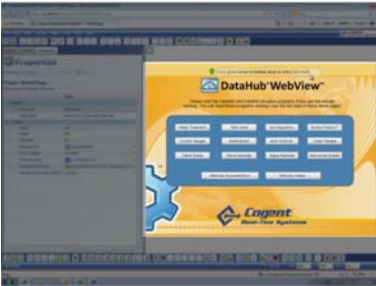
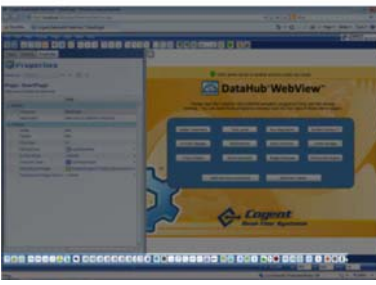
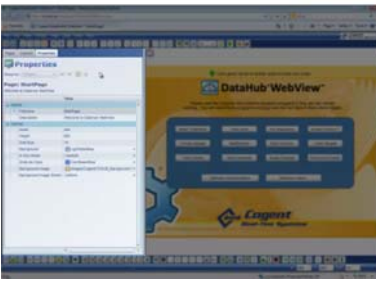
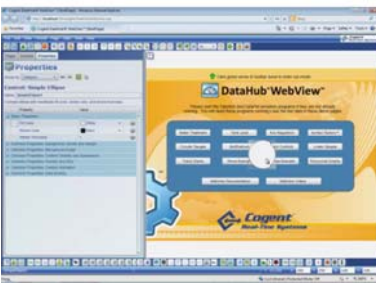
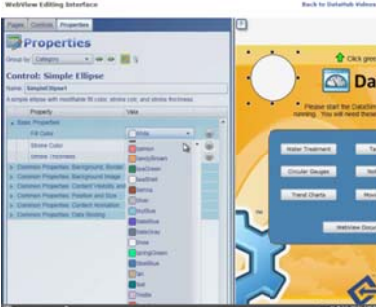
WebView 画面編集機能の基本的な操作方法を習得します。

3.5. 学習前の注意

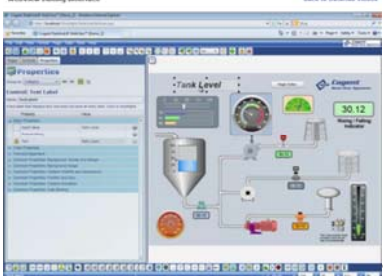

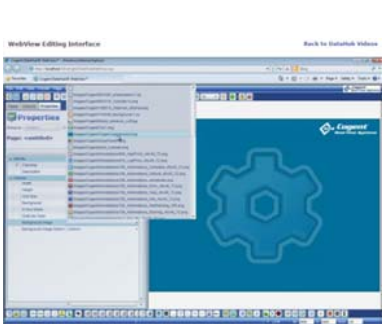
本編は「DataHub WebView の使い方」(原題: Starting DataHub WebView) の続編になります。初めての方は、本編を始める前に「DataHub WebView の使い方」を習得して、管理者権限で WebView にログインして「編集モード」画面を表示させて下さい。

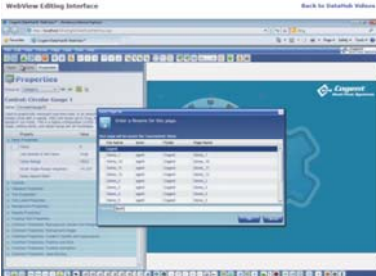
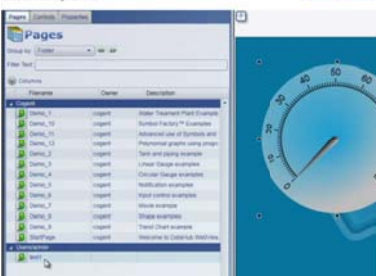

また「DataHub WebView の使い方」に従って実際に試す環境の **DataHub WebView 設定**で、ランモード開始やキヨスクモードチェックを外し、起動ページ実行を設定している場合は元の状態「Cogent/StartPage」に戻しておきます。

3.6. ビデオ内容 : WebView 画面編集機能



ビデオ画面（時間）	解説
 <p>00:00-0:17</p>  <p>0:18-0:25</p>  <p>0:26-0:39</p>	<h4>3.6.1. 編集画面の説明</h4> <p>キャンバス ページの右側は Web ページを作るキャンバスです。 (ハイライト部分)</p> <p>コントロール・アイコン 画面下部にはコントロール・アイコンがあります。 (ハイライト部分)</p> <p>プロパティ 画面左側はページのプロパティです。(ハイライト部分) ここで表示されているのは「ページの背景のプロパティ」です。</p> <p>以降はこれらの編集機能を使用して WebView ページを編集する事例を紹介します。</p>
  <p>0:40-0:59</p>	<h4>3.6.2. コントロールの配置</h4> <p>図形の配置 : 丸型図形 丸型図形を配置するために、下のコントロール・アイコンの中から楕円形のアイコンをクリックします。右画面中央にクリックしたアイコンが表示されます。アイコンはドラッグして自由な場所に移動することができます。</p> <p>配色の変更 左側のプロパティ領域には現在指定されている白丸のプロパティが表示されています。この丸い図形を塗りつぶす色を変更するため「Properties」の「Basic Properties」の「Fill Color」で「Tomato」という色を選択します。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>1:00-1:19</p>	<h3>3.6.3. リストからのコントロール配置</h3> <p>プロパティ領域の「Controls」タブをクリックします。ここには各コントロールがその説明とともにリストされています。</p> <p>「Radio Button」を配置するために、Common Input Controls の「Radio Button」の左側にある緑の「十字マーク」をクリックします。するとキャンバスの中央部に Radio Button が表示されます</p>
 <p>1:20-1:37</p>	<h3>3.6.4. コントロールのマニュアル配置</h3> <p>「Push Button」を自由な場所にマニュアル配置するために、Common Input Controls の「Push Button」の左側にある「緑の十字マーク」を右クリックしますと、「ボタンを中央に配置する」Add to Page (center)か、もしくは「任意の場所に置く」Add to Page (manual placement)かの選択が出てきます。</p> <p>「Add to Page (manual placement)」を選択します。すると「Push Button」コントロールを自由にドラッグして赤マル印の上に配置することができます。</p>
 <p>1:38-2:00</p>	<h3>3.6.5. 編集ページの変更</h3> <p>Page タブにはシステム内にある WebView ページの一覧が表示されています。Page タブ内のリストをダブルクリックするか右端の「緑の矢印」のアイコンをクリックすると、新しい編集ページを開くことができます。</p> <p>「Demo_2」を選択して新しいページを開くと、「You will lose unsaved changes on the current Page.」(今まで作業していた編集画面の内容が失われます) という意味のメッセージが出ます。この場合では保存する必要がないため「OK」をクリックします。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>2:01-2:16</p>	<p>編集内容の破棄に確認すると、Demo_2 ページの編集画面が開きます。ここではマウスでクリックしてページ内の図形やコントロールの要素を編集することができます。試しに「Tank Level」の文字をドラグで移動してみます。このページの編集が可能な事が確認できます。</p>
 <p>2:17-2:59</p>	<h3>3.6.6. 新規ページの作成</h3> <p>新しくページを作成する場合は、画面上部のツールバーにある「ページ作成」(new)のアイコンをクリックします。すると「You will lose unsaved changes on the current Page.」(今まで作業していた編集画面の内容が失われます)のメッセージが出ます。今は保存するものがないため「OK」をクリックします。</p> <p>右画面には新しい空のキャンバスが出てきます。このキャンバスは最後に編集したキャンバスと同じプロパティ設定となっています。もしご自分の好みのページ設定がある場合は、画面上部のメニューバーの「Page」ドロップダウン・メニューで変更可能です。ここではシステムのデフォルト設定を適用するため「Apply Default Page Properties」を選択します。</p>
 <p>3:00-3:30</p>	<h3>3.6.7. キャンバスの背景画像</h3> <p>キャンバスの背景に画像を挿入するには、左側のプロパティ領域(Properties)の「Canvas」「Background Image」の項目をクリックして、任意のイメージを選択します。</p> <p>画面下のコントロール・アイコンの中から「水色の円形ゲージ」(Circular Gauge 1)を選んでドラグしてください。ゲージアイコンは先程選択した背景画像よりも上に表示されます。</p> <p>プロパティで選択した「Background Image」は背景画像となるため、コントロールを加えてもかならず一番下の表示となります。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>3:31-3:44</p>	<h3>3.6.8. 編集ページの保存</h3> <p>編集したページを保存するには、ツールバーにある「保存」(save)のアイコンをクリックするか、画面上部の「File」ドロップダウン・メニューで「Save」を選択して、「Enter a filename for this page.」のダイアログを呼び出します。ここではテストなので「test1」と名前を入力して Enter キー、または OK をクリックします。</p>
 <p>3:45-4:08</p>	<h3>3.6.9. 保存したページの確認</h3> <p>左画面「Pages」タブをクリックします。一番下のログインしているユーザー名である、User/Admin のディレクトリの場所に先ほど保存した「test1」が表示されています。</p>
	<h3>3.6.10. データの関連付け</h3> <p>ここではゲージ・コントロールを例にして、DataHub のデータにコントロールを関連付けしてリアルタイムにデータ表示をする方法を説明します。</p> <p>キャンバスのゲージ・コントロールの上でダブルクリックすると、左側のプロパティ領域にはゲージアイコンのプロパティが表示されます。</p> <p>プロパティ項目の「Basic Properties」のグループにある「Value」項目の右端にある下向き矢印をクリックします。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
  <p>4:09-4:31</p>	<p>「Binding」のメニューが出るので、中央の「None」のプルダウンメニューを「Point」に変更して、その下のテキストボックスにシミュレーション・ツールが出力するデータ・ポイント名の「DataPid:PID1.Pv」を入力します。このデータ・ポイントの入力には、インテリセンスが働くので、途中まで入力した後で表示されるプルダウンメニューから選択することもできます。</p> <p>入力が終わるとデータが関連付け（バインド）されるので、すぐにデータ表示が始まり、キャンバス上のゲージ・コントロールがデータにリンクされて動作するのが確認できます。</p>
 <p>4:32-4:50</p>	<p>3.6.11. ランモード画面の確認</p> <p>ランモードでの画面確認は、ツールバーの緑の矢印「」（Enter Run Mode）をクリックして行います。</p> <p>編集モードへの復帰</p> <p>ランモードから編集モードに戻る場合はランモード画面のツールバーで「」（Exit Run Mode）をクリックします。すると再び編集画面へ戻ることができます。</p>
	<p>3.6.12. ランモードのオプション設定</p> <p>ランモードの開始時にオプションを設定することができます。メニューバーの「Page」からプルダウンメニューの「Run Mode Options」を表示させて「Use Kiosk View」をチェックするとキヨスクモードでランモードを開始します。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>4:51-5:52</p>	<p>ツールバーの緑の矢印「」（Enter Run Mode）をクリックすると、オプションボタンなどが表示されない実行専用のキヨスクモード画面が確認できます。</p> <p>キヨスクモードから編集モードに戻る場合は「Ctrl+Shift+R」のキーを押して下さい。</p> <p>DataHub や WebView を利用するための詳細情報は以下のページにある、オンライン・マニュアルを参照して下さい。</p> <p>http://www.cogentdatahub.com/Documentation.html</p>

4. ユーザー・ログインの権限設定

4.1. タイトル

原題:Configuring user login permissions (時間 8 分 6 秒)

所在:

<http://www.cogentdatahub.com/Demos/UserPermissions/UserPermissions.html>

4.2. 概略説明

DataHub WebView のログインに必要なユーザー名とユーザー権限の管理方法に関する解説です。DataHub ではユーザーと各ユーザーが参加するグループに対して、DataHub ではセキュリティ管理機構により、DataHub が提供する各機能を利用する権限を、機能別に管理して設定することができます。ここでは WebView のオペレーターとデザイナーのユーザーを新規に作成する事例により、ユーザーの権限設定方法を解説します。

4.3. 対象者

Cogent DataHub WebView の初心者、管理者、管理者を目指す方

4.4. ゴール

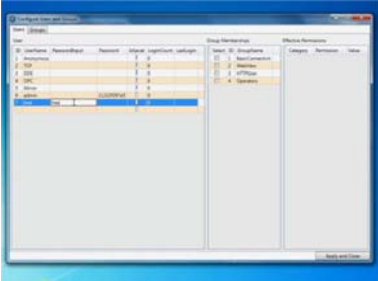
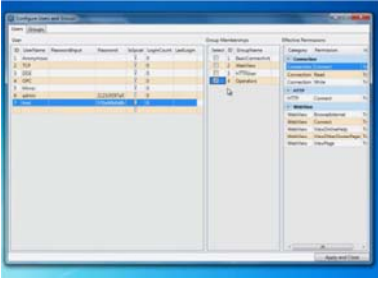
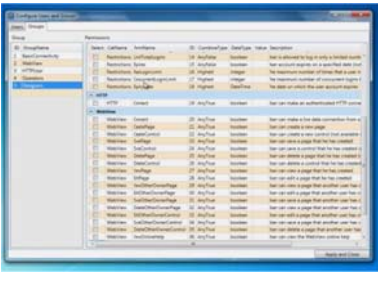
DataHub WebView のユーザー・ログインの設定と管理方法を習得します。

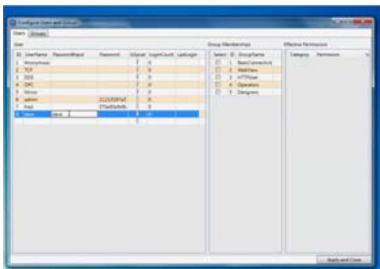
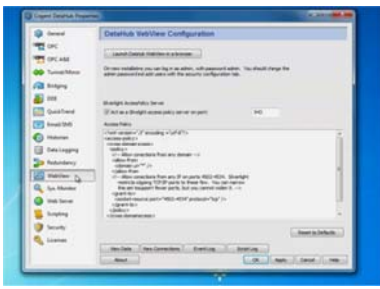
4.5. 学習前の注意


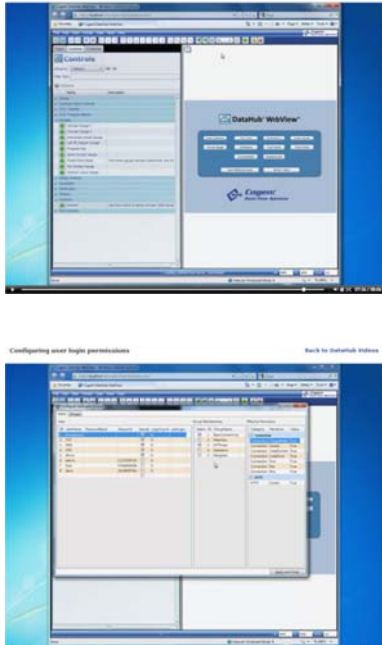
Cogent DataHub をインストールして「Cogent DataHub」「DataSim」「DataPid」のショートカット・アイコンをデスクトップに表示させておいて下さい。

4.6. ビデオ内容紹介：ユーザー・ログインの権限設定

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>0:00-0:29</p>	<p>4.6.1. セキュリティ設定画面の表示</p> <p>DataHub プロパティの表示 Cogent DataHub を起動後、デスクトップ右下のタスクバーに表示されている歯車型の「Cogent DataHub」アイコンを右クリックしてメニューを表示させ、「プロパティ」を選択します。</p> <p>セキュリティ設定の表示 Cogent DataHub プロパティのメニューが表示されるので「セキュリティ」アイコンをクリックします。次に「許可設定」ボタンをクリックします。個人ユーザーとグループユーザーの一覧表を表示する管理画面になります。</p>
 <p>0:30-2:36</p>	<p>4.6.2. オペレーター・グループの新規作成</p> <p>この設定では WebView のページ作成はできないが参照と実行ができる「Operators」グループを作成します。</p> <p>ここでは同じ権限を持つ管理用の新しいグループを作るため「Groups」タブを選択後「GroupName」の一番下の欄をクリックして「Operators」と作成するグループ名を入力します。</p> <p>右側の「Permissions」一覧で「Operators」グループに共通に必要な権限をチェックします。DataHub のデータをリアルタイムに参照するために次の権限を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Connection/Connect ● Connection/Read ● Connection/Write <p>WebView アプリケーションを Web サーバーに HTTP 接続するために必要な次の権限を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● HTTP/Connect

ビデオ画面（時間）	解説
	<p>Operators グループの WebView の実行権限として、この例では次の権限を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● WebView/Connect（接続権限） ● WebView/ViewPage（ページ参照権限） ● WebView/ViewOtherOwerPage（他者ページ参照） ● WebView/OnlineHelp（オンラインヘルプ参照） ● WebView/BrowseInternet（他のサーバーのリンク参照）
  2:37-3:23	<h4>4.6.3. オペレーター・ユーザーの新規作成</h4> <p>「Users」タブの「UserName」の一番下の欄をクリックして、新しく作成するユーザー名「fred」を入力します。</p> <p>「Password」欄には設定するパスワード（この場合はユーザー名と同じ fred）を入力します。自動的にパスワード・ハッシュが作られて表示されます。</p> <p>注意：パスワードはシステムから読みだすことができないため、ユーザーがパスワードを忘れてしまった場合は、もう一度パスワードを作ってください。</p> <p>新しいユーザーを所属させる「Group Memberships」の一覧の「Operators」にチェックを入れます。右側の「Effective Permissions」の一覧には、「Operators」グループから引き継いだ、オペレーター用の権限が表示されます。</p>
 3:24-5:10	<h4>4.6.4. デザイナー・グループの新規作成</h4> <p>WebView ページを作成する、デザイナー権限のグループを作成する手順を示します。もう一度「Groups」タブに戻り「GroupName」の一番下の欄に「Designers」と入力します。</p> <p>右側の「Permissions」一覧で Designers グループに共通に必要な権限をチェックします。Designers グループには WebView を操作する全ての権限を与えるため、Operators グループの設定に加えて全ての WebView の実行権限にチェックをします。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
<div data-bbox="201 315 578 581">  </div> <div data-bbox="201 627 578 894">  </div> <div data-bbox="201 911 578 1197">  </div> <div data-bbox="589 869 696 894">5:11-5:38</div> <div data-bbox="589 1171 696 1197">5:39-5:53</div>	<h3 data-bbox="745 235 1226 260">4.6.5. デザイナー・ユーザーの新規作成</h3> <p data-bbox="745 323 1398 485">「Users」タブの「UserName」の一番下の欄に新しく作成するユーザー名「dave」を入力します。名前と同じパスワード「dave」を打ち込みます。自動的にパスワード・ハッシュが作られます。</p> <p data-bbox="745 550 1398 756">dave を所属させる「Group Memberships」の一覧の「Designers」にチェックを入れます。右側の「Effective Permissions」の一覧には、「Designers」グループの権限が表示され、WebView の編集に必要な全ての権限があることが確認できます。</p> <h3 data-bbox="745 821 954 846">変更の保存と終了</h3> <p data-bbox="745 865 1398 1026">右下の「Apply and Close」ボタンをクリックすると、変更を保存して「セキュリティ」の設定画面を終了します。これにより DataHub のユーザー権限管理データベースが更新されます。</p>
	<h3 data-bbox="745 1224 1252 1249">4.6.6. オペレーター・ユーザーのログイン</h3> <p data-bbox="745 1312 1398 1476">Cogent DataHub プロパティのメニューで「WebView」アイコンをクリックして、DataHub WebView 設定の「ブラウザ上で DataHub WebView 起動」ボタンをクリックします。</p> <p data-bbox="745 1539 1398 1654">ログイン画面では次のユーザー名とログインパスワードを入力します。ここでは先ほど作成したオペレーターのfredとしてログインします。</p> <p data-bbox="745 1719 1398 1789">Username: fred と入力し「Tab」キー Password: fred と入力し「enter」キーを押します。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 5:54-7:14	<p>キヨスクモードのスタートページが表示されて、fred に与えられた権限での WebView データ閲覧と操作が可能です。</p> <p>「F5」キーを押すと、ブラウザのリロード機能によりログイン画面に戻ります。</p>
 7:15-7:43 7:43-8:06	<h4>4.6.7. デザイナー・ユーザーのログイン</h4> <p>今度はデザイナーの dave としてログインします。</p> <p>Username: dave と入力し「Tab」キー Password: dave と入力し「Enter」キーを押します。</p> <p>デザイナー用の編集モードの画面が表示され、先ほどの fred との違いが一目瞭然です。</p> <p>Cogent DataHub プロパティに戻って、「セキュリティ」メニューから、「許可設定」ボタンをクリックします。</p> <p>個人ユーザーとグループユーザーの一覧表示画面では、各ユーザーに与えられている権限と、グループの権限を確認することができます。</p>

5. DataHub WebViewランモード

5.1. タイトル

原題: Introduction to WebView Run Mode (時間 18 分 49 秒)

所在:

<http://www.cogentdatahub.com/Demos/1-WebViewRunMode/WebViewRunMode.html>

5.2. 概略説明

DataHub WebView をエンドユーザーとして操作する使い方「ランモード」に関する解説です。

WebView は Microsoft 社の .NET Framework ベースの新しいユーザー・エクスペリエンス技術である Silverlight を利用して構築されているため、多彩な高品質のグラフィック画像を扱うことができ、また画像品質を保ったまま容易に変形や加工表示ができるという特長があります。また WebView にはデータのリアルタイム表示だけではなく、設定変更や機器の操作をリアルタイム実行できるというインタラクティブな操作が可能です。ここでは特にこのような WebView の特長を踏まえて、有効に利用する方法を示しています。

この説明では、カナダ・トロントからノースカロライナのクラウドサーバーに接続して説明していますが、実際に試す場合には 1 台のローカルな環境や社内等のネットワーク環境でも全く同様に操作を試すことが可能です。

5.3. 対象者

Cogent DataHub WebView の初心者、オペレーター

5.4. ゴール

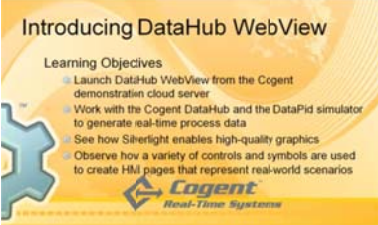

DataHub WebView のランモードが提供する様々な機能の操作方法を習得します。

5.5. 学習前の注意

Cogent DataHub をインストール後、「Cogent DataHub」「DataSim」「DataPid」のショートカット・アイコンをデスクトップに表示させて、Cogent DataHub を起動しておいて下さい。

初めての方は、本編に入る前に「DataHub WebView の使い方」を習得しておくことをお勧めします。また「DataHub WebView の使い方」に従って実際に試す環境の起動ページ実行を設定している場合にはご自身で、または管理者に依頼して元の状態「**Cogent/StartPage**」に戻しておきます。

5.6. ビデオ内容紹介 : DataHub WebViewランモード

ビデオ画面 (時間)	解説
 <p>0:00-00:54</p>	<h3>5.6.1. 学習内容</h3> <p>このビデオでは DataHub WebView ランモードにおける次の内容を解説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DataHub WebView を Cogent のクラウド上のデモサーバーから起動する方法 ● Cogent DataHub の DataPid シミュレーターによるリアルタイムなテスト用データの作成方法 ● Microsoft Silverlight による高品質なグラフィックスの取扱い ● 実際の利用場面を表現する HMI ページを作成するため、様々なコントロールやシンボルがどのように利用されるかという事例
 <p>0:55-2:08</p>	<h3>5.6.2. PID コントロール</h3> <p>DataPid と DataSim は、Cogent DataHub と同時にインストールされる、シミュレーションデータ作成用のプログラムです。デスクトップにある DataPid アイコンから DataPid プログラムを起動します。次にコントロールパネルの「More...」をクリックして表示を展開します。</p> <p>注意 : PID コントロールとは？</p> <p>Proportional-integral-derivative controller の略。工場やプラント、制御分野において広く使われている標準でかつ汎用的な制御ループのフィードバック・メカニズムを提供するコントローラです。</p> <p>表示画面下のグラフの表示の解説</p> <p>赤表示 : Sp: Setpoint (設定値)</p> <p>青表示 : Mv: Manipulate Variable (操作値)</p> <p>緑表示 : Pv: Process Variable (出力値)</p> <p>注意 : 標準設定では Auto モードに設定されていて、5 秒毎に適当な値に Setpoint が変化し、他の値もそれに追従して変化する様になっています。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>2:09-3:28</p>	<h3>5.6.3. Setpoint の変更</h3> <p>Configurable Options 中の赤文字 Setpoint (SP) の領域で「Manual」を選択して設定値「75」を入力します。「Apply Change」ボタンをクリックします。グラフを見ると緑の線が 75 の数値で安定します。この設定により、5 秒毎の自動的な変化は無くなります。</p> <p>数値を「15」と入力し「Apply Change」ボタンをクリックすると、緑のグラフの線がすぐに 15 の数値に下がることが確認できます。</p> <p>このように数値シミュレーターにより実際のシステムを持たなくても、デモやテストを実行することができます。DataPid プログラムはこの後も利用するので、終了せずに最小化しておきます。</p>
 <p>3:29-5:17</p>	<h3>5.6.4. クラウドサーバーの Cogent DataHub の利用</h3> <p>クラウドサーバーのデータにアクセスするため、ブラウザを立ち上げて 「http://cloud.cogentdatahub.com/Silverlight/DataHub WebViewDemo.asp」と入力します。</p> <p>注意: クラウドサーバーは米国ノースカロライナで稼働しているので、ネットワークの状態によっては遅延が発生する場合があります。このデモではログインと認証の手順は自動実行しているため省略しています。</p> <p>ランモード画面</p> <p>エンドユーザーやオペレーターが使用するランモードのスタートページが表示されます。デザイナーはこの画面を変更することができますが、エンドユーザーやオペレーターはできません。</p> <p>注意: このビデオのデモはカナダのトロントから、クラウド上のデータを参照しています。手元にある DataPid と DataSim のシミュレーターは使用していません。</p>

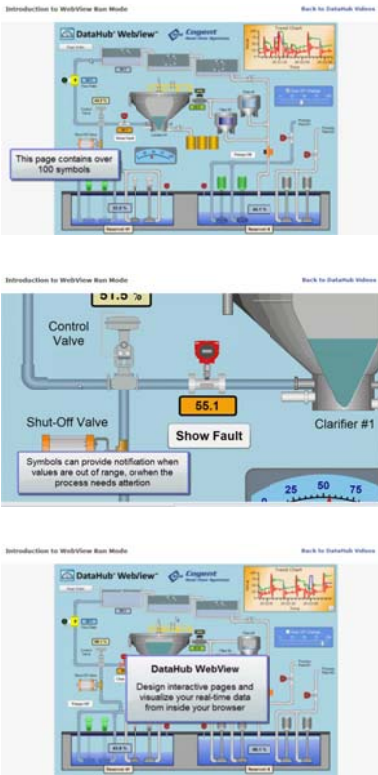
ビデオ画面（時間）	解説
  5:18-7:13	<h3>5.6.5. インタラクティブなページ</h3> <p>左列、上から 2 番目の「Circular Gauges」をクリックして、インタラクティブな動作をするデモ・ページを開きます。</p> <p>左上のゲージ「Circular Gauge 1」は Setpoint の表示です。黄色の大きな矢印をマウスでドラッグして動かすと、他のゲージにも変化がみられることがわかります。同様にして下段左側の「Three Indicator Radial Gauge」も、クラウドにアクセスした画面から値を変更することができます。デザイナーの設計により、これら 2 つのゲージだけがインタラクティブに操作することができる様になっています。</p> <p>「Page Index」ボタンをクリックしてスタートページに戻ります。</p>
  7:14-8:52	<h3>5.6.6. データのリアルタイム表示</h3> <p>もう一度「Circular Gauges」をクリックします。</p> <p>画面上で操作された値はすべてリアルタイムにサーバーに反映される事を確認してみましょう。</p> <p>確認のため同じ画面をもう一枚開いてみます。ブラウザの右上の「元のサイズに戻す」ボタンをクリックして縮小表示させます。もう一枚同じ画面を開きます。左ページの「Gauge 1」の黄色い矢印をドラッグして動かします。右の画面と左の画面の矢印の位置が、クラウドを介して同じ様に動く事が判ります。</p> <p>右側のページを閉じて、左側のページを最大化表示にします。「Page Index」ボタンでスタートページに戻ります。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
<div data-bbox="201 331 578 564">  </div> <div data-bbox="591 541 698 569"> <p>8:53-9:50</p> </div> <div data-bbox="201 869 578 1102">  </div> <div data-bbox="591 1079 711 1106"> <p>9:51-10:16</p> </div> <div data-bbox="201 1140 578 1373">  </div> <div data-bbox="578 1350 711 1377"> <p>10:17-10:55</p> </div> <div data-bbox="201 1467 578 1680">  </div> <div data-bbox="578 1659 711 1686"> <p>10:56-11:15</p> </div>	<p>5.6.7. Silver light による高品質なグラフィックス表示</p> <p>スタートページで「Notifications」ボタンをクリックして通知用デモ・ページを表示させ、Microsoft Silverlight による高品質なグラフィックス表示を確認します。</p> <p>このページでは、値によって色を変化させる High/Low Indicator、ON/OFF できる Simple Light、4 種類の状態を設定して色の変化で確認できる Advanced Light with state conditions と、色変化・点滅・変形をさせることができ、実際の形状を示すシンボルを示す Symbols and Dynamic shapes 等のコントロールを使用してデータ表示をしています。</p> <p>ズーム機能</p> <p>Microsoft Silverlight 技術により、ランモード画面左上のタスクバーにある「+」(Zoom In)「-」(Zoom Out)のズームアイコンを使って、画面をズームイン・ズームアウトしても、これらのグラフィックは形状を保ったまま高品質に表示できます。</p> <p>Zoom Fit ボタン</p> <p>タスクバーの「Zoom Fit」ボタンは、どのような画面サイズにも適度に見やすい画面に自動調整します。操作する人が使用するいかなるブラウザのサイズにも適合するため、各ページを Zoom Fit で保存することをお勧めします。</p> <p>DataHub WebView のシンボル</p> <p>現在、様々な形をした約 4000 種類のシンボルが WebView で利用可能なコントロールとして、標準で登録されています。</p> <p>「Page Index」ボタンをクリックして画面を切り替えて、サンプルを見てみましょう。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>11:16-12:19</p>	<p>5.6.8. シンボル : Input Controls</p> <p>スタートページにある「Input Controls」をクリックして入力制御のデモ・ページを表示させ、いくつかのシンボルとその動きを確認します。ここには「Gauge」のほかにも、デザイナーがデータ入力操作を伴うインタラクティブな WebView ページを作成するのに有用な「Radio Button」、「Simple Checkbox」、「Advanced Checkbox」、「Simple Slider」、数値を直接入力可能な「Text Entry Field」等、様々なコントロールがあります。</p> <p>「Page Index」ボタンをクリックしスタートメニューに戻り、次のサンプル・ページを確認します。</p>
 <p>12:20-13:13</p>	<p>5.6.9. シンボル : Linear Gauges</p> <p>スタートページにある「Linear Gauges」をクリックして、様々な線形動作を行うゲージ群のデモ・ページを開きます。</p> <p>「Horizontal linear gauge」はユーザーが赤矢印を動かしてデータを変更することができます。しかし「Vertical Linear Gauge」や「Top sweet gauge」の青矢印を動かそうとしても反応がありません。</p> <p>このページにはユーザーによるデータの変更を許すインタラクティブなコントロールと、値を変更できないコントロールがあります。それらはこのページ的设计者（デザイナー）が設定しています。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>13:14-13:26</p>	<p>5.6.10. シンボルの背景画像</p> <p>ゲージコントローラーに背景画を入れる事ができます。画面のハイライト部分は「Semi-circular gauge」に家の絵を加えたものです。このように各シンボルのコントロールは背景画像の設定を含む、様々な共通プロパティをサポートしています。</p> <p>「Page Index」ボタンでスタートページに戻り、他のコントロールを参照します。</p>
 <p>13:27-14:35</p>	<p>5.6.11. 様々なシンボル</p> <p>スタートページ右上の「Symbol Factory」をクリックします。ここで表示されるシンボルは、ラジオボタンで選択して形状を変化させることができます。</p> <p>Cogent 社のパートナーである Software Toolbox 社が DataHub WebView に提供している約 4000 のシンボルのうちの一部が表示されています。これらのシンボルは「シンボルコントロール」というツールを使いページに加える事ができます。またシンボルに値を入力することにより色の変更、回転、点滅、形を変化させることができます。後ほど解説します。</p> <p>別のデモ・ページに移動するため「Page Index」ボタンでスタートページに戻ります。</p>
 <p>14:36-15:54</p>	<p>5.6.12. Trend Chart による時系列データ表示</p> <p>スタートページ左下の「Trend Chart」をクリックします。この Trend Chart のページでは時系列データをグラフ表示することができます。もう一度スタートメニューに戻り再び「Trend Chart」に入ってくると、わずかな時間の経過でも新しいグラフが描写されている事が判ります。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
	<p>このチャートは Cogent DataHub 7.0 が提供する優れた機能である「Data Historian」機能の一部として導入されました。このような時系列データのグラフ表示は HMI (Human Machine Interface) システムには欠かせない動作です。</p> <p>このように多くの種類のゲージや入力制御用コントロール、シンボルや通知機能のコントロールを用意しているのは、まさしくそのようなページを作成できることが、プロセスコントロールや FA の分野では広く求められているからです。</p> <p>「Page Index」ボタンでスタートページに戻ります。</p>
 <p>15:54-17:17</p>	<p>5.6.13. タンク内容量の危険検知</p> <p>スタートページ上段左から 2 番目の「Tank Level」をクリックしてタンクの液量計測のデモ・ページを開きます。</p> <p>左上のスライダーコントロールでは設定値を操作することができます。ここでは試しに設定値を最大の 100 まで上げてみます。画面真ん中にある緑のクールポンプは危険数値になると赤に変わり、点滅してオペレーターに危険を知らせます。</p> <p>DataHub WebView は現場でのデータをリアルタイムに反映し、同時に画面からもデータ操作をするというシナリオのページ作成において力を発揮します。</p> <p>「Page Index」ボタンでスタートページに戻ります。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>17:18-18:49</p>	<h3>5.6.14. 複雑なデモ・ページ</h3> <p>最後のページは、スタートページ上段左の「Water Treatment」をクリックします。これは様々なタンクやパイプ、バルブなど 100 種類以上のシンボルが使われている複雑な水量を管理するプラントをイメージしたデモ・ページです。</p> <p>画面をズームインすると中央のバルブが点滅しているのを確認できます。何らかの異常がある場合、色が赤となり点滅しながらメッセージを表示し、オペレーターに知らせます。</p> <p>DataHub WebView は、シンボルを使ってビジュアルにデータ見える画面をデザインする事で、オペレーターがブラウザでリアルタイムにデータを見ながら、どこからでも遠隔操作を可能にします。</p> <p>ここでは WebView が用意しているデモ・ページを使用して、このような操作をオペレーターが行うランモードの使用方法を説明して来ました。</p>

6. 編集モードの基本

6.1. タイトル

原題: Design Mode Fundamentals (時間 29 分 5 秒)

所在:

<http://www.cogentdatahub.com/Demos/2-WebViewDesignMode/WebViewDesignMode.html>

6.2. 概略説明

DataHub WebView のページをデザインし、使いこなすための「編集モード」の基本的な使い方を詳しく解説しています。この説明では、カナダ・トロントからノースカロライナのクラウドサーバーに接続して説明していますが、実際に試す場合には 1 台のローカルな環境や、ネットワーク環境でも全く同様に操作を試すことが可能です。

6.3. 対象者

Cogent DataHub WebView のページをデザインするデザイナー

6.4. ゴール

DataHub WebView の編集モードが提供するデザイン機能の操作方法を習得します。


6.5. 学習前の注意


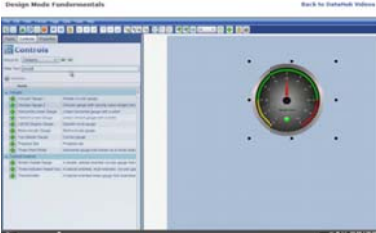
Cogent DataHub をインストール後、「Cogent DataHub」「DataSim」「DataPid」のショートカット・アイコンをデスクトップに表示させて、Cogent DataHub を起動しておいて下さい。


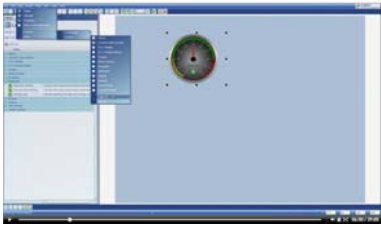
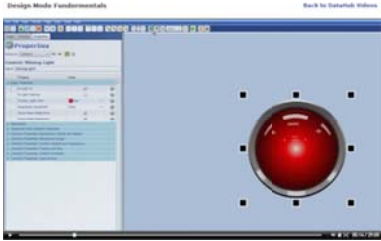

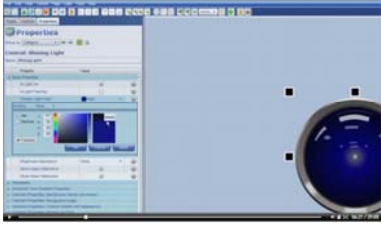
初めての方は、本編に入る前に「DataHub WebView の使い方」を習得しておくことをお勧めします。また「DataHub WebView の使い方」に従って実際に試す環境の起動ページ実行を設定している場合には、自身でか管理者に依頼して元の状態「**Cogent/StartPage**」に戻しておきます。

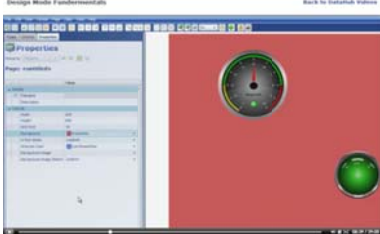

6.6. ビデオ内容紹介：編集モードの基本

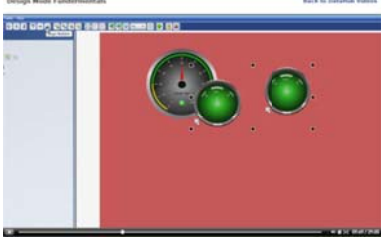
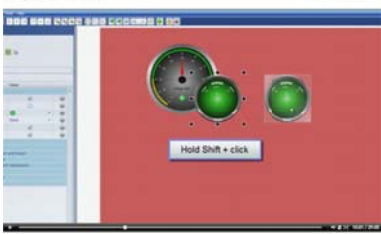
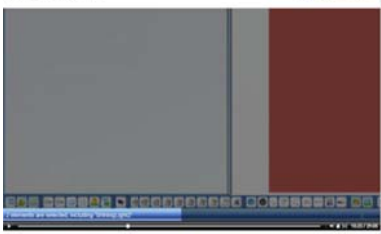
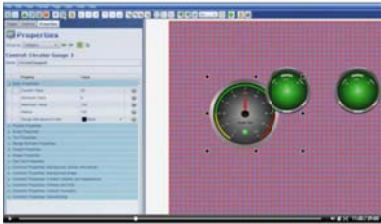

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>0:00-0:27</p>	<h3>6.6.1. 学習内容</h3> <p>このビデオは次の編集モード（Design Mode）の基本的な操作を学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 編集モード環境を体験します ● キャンバスにコントロールを加えます ● コントロール画像にプロパティ値をセットします ● キャンバスの操作をマスターします ● ランモードのオプションを理解します
 <p>0:28-1:10</p>	<h3>6.6.2. クラウドサーバーの Cogent DataHub の利用</h3> <p>クラウドサーバーのデータにアクセスするため「DataHub WebView ランモード」のビデオと同様に、ブラウザを立ち上げて、 「http://cloud.cogentdatahub.com/Silverlight/DataHubWebViewDemo.asp」と入力します。</p> <p>注意:クラウドサーバーに関しては、「DataHub WebView ランモード」（Introduction to WebView Run Mode)ビデオの説明を参照して下さい。</p> <p>フルスクリーン画面 ブラウザ（Internet Explorer）のメニューバーで「表示」または「ツール」の「全画面表示(F11)」を選択して全画面表示にします。</p> <p>編集モード（Design Mode） 立ち上がった WebView ページがランモード画面で表示されている場合は、WebView 画面左上のツールバーで「」（Exit Run Mode）をクリックするか、その上のメニューバーで「Page」「Exit Run Mode」を選択するか、ショートカットの「Ctrl+Shift+R」のキーで編集モードに移動します。</p>

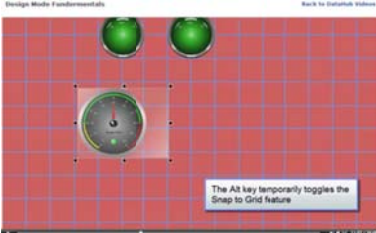
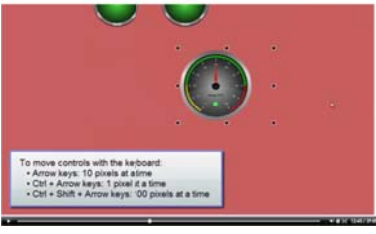
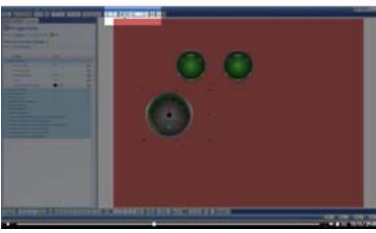

ビデオ画面（時間）	解説
  1:11-1:54	<h3>6.6.3. 新規ページの作成</h3> <p>画面左上ツールバーの「New」アイコン、または WebView のメニューバーで「File」「New」をクリックして新しいページを作ります。</p> <p>背景画像のリセット</p> <p>背景画像をリセットするため、左側プロパティ領域の「Canvas」「Background Images」で右クリックして表示される「Reset Value to Default」を選択します。</p> <p>注意: ビデオではクラウド上のサーバーに接続してデモを行っているため、キャンパスの内容を保存できません。ローカルホストやテスト用サーバーにキャンパスの編集内容を保存するには、必要に応じて「WebView 画面編集機能」(WebView Editing Interface) のビデオの手順を参照して、編集したページを保存して下さい。</p>
  1:55-2:48	<h3>6.6.4. コントロール・バー</h3> <p>画面下のコントロール・バーには編集で使用する WebView コントロールのアイコン・ボタンが並んでいます。</p> <p>コントロールの追加と操作</p> <p>各コントロールはアイコン・ボタンをクリックするだけで、ゲージ・コントロールをデフォルトの配置位置であるキャンパスの中央に追加できます。この例では「Circular Gauge 2」のコントロールを追加しています。</p> <p>追加したこのゲージ・コントロールは、マウスのドラッグ操作により、キャンパス内で自由に動かし、またサイズ変更する事ができます。</p> <p>左側のプロパティ領域には、選択したゲージの参照・操作可能な様々のプロパティが表示されます。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>2:49-3:27</p>	<p>コントロール名と説明</p> <p>ここではコントロール種類「Control:Circular Gauge 2」の下の「Name」欄に、コントロール名「CircularGauge 21」とその説明が記載されています。この Name フィールドにはコントロールを追加した時に、自動的にユニークな名前が設定されます。この名前は自由に変更する事が可能です。名前は文字と数字のみでスペースは使えません。</p> <p>この説明が不要な場合は、メニューバー「View」「Show control description」のチェックを外します。</p>
 <p>3:28-4:05</p>  <p>4:06-4:13</p>	<p>6.6.5. コントロール・タブ</p> <p>編集で使うコントロールはいつでも、ページ下部のコントロール・バー上でマウスを移動することで、名前を表示させて必要なものをみつけることができます。</p> <p>最適なコントロールを探す場合は、左側プロパティ領域の「Control」タブを使用します。ここには、利用できる全てのコントロールの一覧が説明とともに表示され、容易に探し出すことができます。</p> <p>フィルター機能</p> <p>さらに絞り込む場合にはフィルター機能を使います。例えばゲージ(gauge)に関連するコントロールをフィルターで探す場合には「Control」タブの「Filter Text」に「gauge」と入力します。するとゲージ・コントロールの一覧表が絞りこまれて表示されます。</p> <p>カテゴリーリスト</p> <p>各コントロールは 関連されたカテゴリーの中から探す事もできます。カテゴリー別に表示されている各コントロールは、「Control」タブ「Groups by: Category」で、右ダブル矢印をクリックして一覧表を折り畳み、カテゴリー名表示だけにすることができます。この状態で「Notification」のカテゴリーの右側にある矢印をクリックして展開すると関連するコントロールが表示されます。</p>

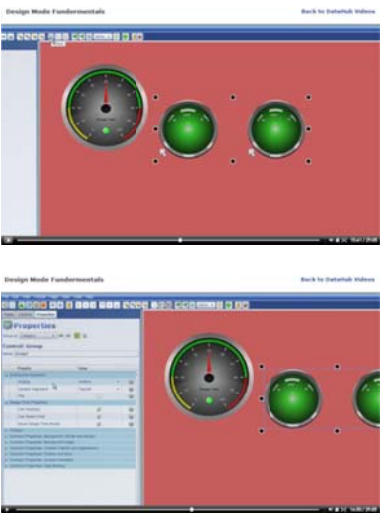

ビデオ画面（時間）	解説
  4:14-5:01	<p>不要なコントロール画像の表示削除</p> <p>画面下部のコントロール・バーの上で右クリックして、表示されるメニューで表示の不要、必要を選択することができます。ここで操作して、すべてのコントロール画像を隠す事もできます。</p> <p>コントロール・バー表示</p> <p>隠したコントロールは画面上部のメニューバーの「View」「Toolbars」「Controls」でも、表示させたいコントロールを選択して表示させることができます。</p> <p>次の作業に移るため、ゲージをキーボードの「Delete」キーで消して下さい。</p>
 5:02-5:31	<p>6.6.6. コントロールのプロパティ</p> <p>コントロール・バーから「Shinning light」を選択して、キャンバスにライト・コントロールを配置します。</p> <p>ズームイン・ズームアウト機能</p> <p>画面上部のツールバーにあるズーム機能を使用して、コントロール画像をズームインします。</p>
 5:32-6:01	<p>コントロール画像のプロパティ</p> <p>左側のプロパティ領域には、現在選択している「Shinning light」のプロパティが表示されています。ライトをつけたり「is Light On」、点滅させたり「is Light Flashing」するという初期値は、プロパティ機能から選択してその場で試すことができます。</p>
 6:02-8:05	<p>オリジナル色の作成</p> <p>「Primary Light Color」のプロパティ項目では、プルダウン・リスト形式で選択できます。もしリストに好みの色がない場合、自分のオリジナルの色を作成する事ができます。「Primary Light Color」欄一番右にある拡張ボタン（下向き矢印）をクリックして調整します。チャートを使用して、様々な色が選択できます。ここでは明るめのグリーンに設定します。色を調整し終わったら「OK」をクリックします。</p>

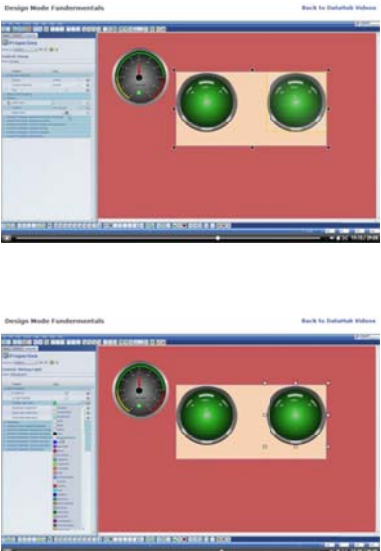
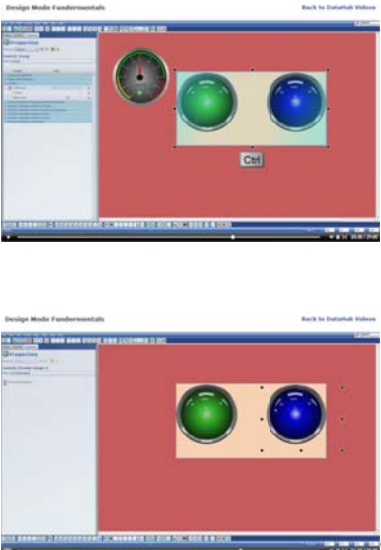
ビデオ画面（時間）	解説
 <p>8:06-8:53</p>	<h3>6.6.7. キャンバスのプロパティ</h3> <p>背景の色を変更 キャンバスでコントロール画像以外の所でクリックし、背景を選びます。左のプロパティに背景のプロパティが表示され、「Page: <Untitled>」と表示されます。</p> <p>このようにあらゆるコントロールのプロパティ設定が可能です。再びコントロール・バーで「Circular Gauge 2」をクリックしてキャンバスにゲージ・コントロールを追加し、大きさと場所を調整します。</p> <p>背景のプロパティを表示させて、プロパティ領域の「Canvas」グループ、「Background」の設定項目で「Indian Red」をクリックして、背景色を変更してみます。</p>
 <p>8:54-9:24</p>	<h3>6.6.8. コントロールの操作</h3> <p>キャンバス上のコントロールの画像には、画面上に表示される順序があります。すなわち新しく追加された画像は古い画像の上位に表示されます。</p> <p>表示順序の変更 まずキャンバスで、順番を変更したいコントロールをマウスで選択後、画面上部のツールバーから四角形を重ねた「Bring to front」や「Bring to back」等のボタンで操作すると上下の表示順位を変更することができます。</p> <p>あるいはコントロール画像の上で右クリックし、表示される「Order」メニューを使用して、表示順を選択します。</p>
 <p>9:25-9:35</p>	<h3>コントロールのコピー</h3> <p>コントロールの上で右クリックして表示させるメニューでは「Cut」「Copy」「Paste」などの操作を選択できます。「Duplicate」を選択するとその場で選択した画像をコピーして貼り付けます。</p>

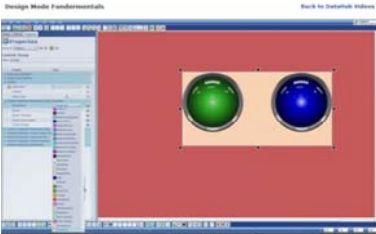
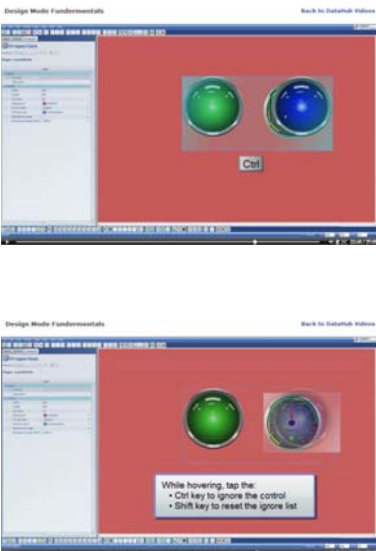
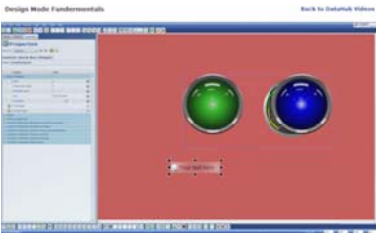
ビデオ画面（時間）	解説
 	<p>コピーした画像の位置合わせ</p> <p>マウスの左クリックをしたままコントロールの周囲でドラッグして表示させる四角形カーソルで、2つのライト・コントロールを囲むように範囲指定します。</p> <p>画面上部のツールバーにある「Align Bottom」をクリックすると選択中の画像の上下方向の位置が揃えられます。</p> <p>位置合わせをした画像両方の選択</p> <p>位置合わせをした2つのコントロールを同時に選択するためには、まず左のライトを選択します。次に「Shift」キーを押しながら右のライトを選択します。</p>
	<p>選択されている画像の詳細</p> <p>各ライトの左下に白の小さな矢印が現れます。これは複数のコントロールが選択されていることを示します。また同時に画面左下のステータス・バーに、選択しているコントロールの説明が表示されます。</p>
 	<p>6.6.9. グリッド</p> <p>キャンバスにグリッドを表示</p> <p>各コントロールの位置を自由かつ正確に決めるために、画面上部にあるツールバーのなかで格子上のアイコン「Show Gridlines」をクリックして、編集補助用のグリッドを表示させます。</p> <p>グリッドの間隔設定</p> <p>グリッドのかかった背景を右クリックすると、左側に背景のプロパティが表示されます。グリッドの格子の間隔を変更するために、プロパティ領域の「Canvas」グループ、「Grid Size」の設定項目に「50」と入力します。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>11:19-12:17</p>  <p>12:18-12:59</p>	<p>グリッドに合わせてコントロールを配置する</p> <p>画面上部にあるツールバーの「Snap to Grid」をクリックすると、以降の移動や拡大・縮小等の画像の変形動作は、グリッドに整合させて行われるようになります。キャンバスで右クリックしてメニューから「Snap to Grid」選択しても同じことが可能です。</p> <p>一時的にグリッドのスナップ機能をはずす</p> <p>「Alt」キーを押しながらコントロール画像を動かすと、一時的にグリッドに合わせた動きから解放され、スムーズに動かす事ができます。</p> <p>同様にスムーズに動かせる状態では「Alt」キーを押しながらコントロール画像を動かすと、グリッドに沿った動きに変わります。次の作業のため、キャンバスで右クリックして「Show Gridlines」のチェックを外してグリッドを消します。</p> <p>キーボードを使ってコントロール画像を動かす</p> <p>キーボードのテンキーパッドやカーソル・キーを使用して、次のようにコントロールを配置することができます。</p> <p>「矢印キー：← → ↑ ↓」は 10 ピクセル単位の移動</p> <p>「Ctrl+矢印キー」は 1 ピクセル単位の移動</p> <p>「Ctrl+Shift+矢印キー」は 100 ピクセル単位の移動</p>
 <p>13:00-13:21</p>  <p>13:22-13:56</p>	<p>6.6.10. ズーム</p> <p>画面上部のツールバーには、様々なズーム（拡大縮小表示）を調整する機能があります。「+」（Zoom In）「-」（Zoom Out）アイコンのほか、10%から 800%まで拡大の倍率を指定するプルダウンがあります。</p> <p>Zoom Fit</p> <p>「Zoom Fit」は、ランモード・ページを見る際、画面サイズに合わせた丁度よい大きさに自動調整されます。</p> <p>キャンバスを保存する前に「Zoom Fit」を指定して、画面の大きさを調整する事を推奨します。</p>

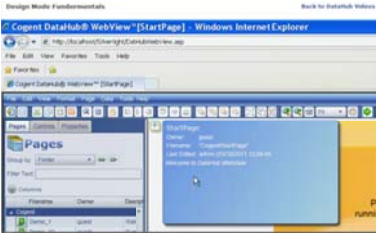
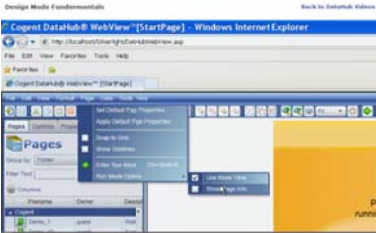
ビデオ画面（時間）	解説
 <p>13:57-14:14</p>  <p>14:15-14:26</p>	<p>コントロール画像を指定してズームする</p> <p>ゲージを選択してキャンバスの左上に移動します。</p> <p>このゲージを選択した状態のまま、画面上部のツールバーにある「+」(Zoom In)アイコンを数回クリックします。指定されたコントロール画像を中心に、キャンバス全体が拡大されるのを確認できます。</p> <p>画像の指定なしでズームした場合</p> <p>キャンバスの中心でズームするため、キャンバスの隅にあるコントロールは見えなくなります。</p>
 <p>14:27-14:45</p>  <p>14:46-15:19</p>	<p>Set Zoon Focal Point</p> <p>Set Zoon Focal Point 機能は、ズームする部分の中心ポイントを指定します。</p> <p>画面上部のツールバーにある「Set Zoon Focal Point」をクリックします。するとマウスカursorが「+」マークに変化するので、そのマークをキャンバスのライト 2 つの中間点に移動後クリックして、ズームの中心ポイント(Zoon Focal Point) を指定します。</p> <p>画面上部のツールバーにある「+」(Zoom In)アイコンを数回クリックします。先ほど指定したポイントを中心にズームされるのが確認できます。</p> <p>解除するには再び画面上部のツールバーにある「Set Zoon Focal Point」をクリックします。</p> <p>同じ操作は、メニューバーの「View」「Zoom」をたどって「Set Zoon Focal Point」「Clear Zoon Focal Point」からも可能です。またキャンバス上で右クリックしても同じメニューを利用できます。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
	<p>6.6.11. コントロールのグループ化</p> <p>緑のライト 2 つをカーセルでドラッグして囲みます。画面上部のツールバーにある「Group」アイコンをクリックします。</p> <p>この操作により 2 つのライトは、水色の"Design Time Border" と呼ぶ点線で囲まれ、グループ化されました。この線はランモードでは表示されません。</p> <p>グループ化された 2 つのライトは 1 つのコントロール画像としてみなされ左側にはそのグループのコントロールのプロパティが表示されます。</p> <p>グループのプロパティの値を操作する事により、グループ全体として様々なパターンの調整ができます。このままの状態ではグループを構成するコントロールはグループを解除しないかぎり個別に設定変更ができません。グループの解除は、グループを選択してツールバーの「UnGroup」または「Cancel Group」アイコンをクリックして実行します。</p> <p>注意: グループを解除するとそのグループに設定したあらゆるプロパティがすべて失われてしまうので、警告が出ます。</p>
	<p>グループ化されたコントロールの一つを変更</p> <p>グループを解除せず、グループ内の 1 つのコントロールにだけ変更を加える事ができます。</p> <p>ここでグループを見やすくするために背景色を変更します。二つのライトの上でクリックして、左側のグループのプロパティ設定で、「Background」の項目設定を「Transparent」から「PeachPuff」に変更します。プロパティの「Child Count」の項目にはこのグループに入っているコントロールの数が表示されます。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
	<p>その下の「Children」の値をクリックするとグループを構成する「ShinningLight1」「ShinningLight2」とプルダウンが出てきて、どちらかを選択すると右側キャンバスにあるライトが黄色い点線で囲まれて 2 回点滅し、選択されている事を知らせます。</p> <p>「ShinningLight2」を選択してその後プロパティに表示される「Select Child」の右側のメモ型のアイコンをクリックすると選択が確定して、右側のライトの廻りが白の四角いハンドルで囲まれます。プロパティも Shinning light 2 の表示に変化します。</p> <p>選択したコントロール画像の色の変更</p> <p>プロパティの「Shinning Light Color」から「Blue」選択すると Shinning light 2 の色が変わります。</p>
	<p>6.6.12. 隠れている画像の選択</p> <p>コントロール画像の下に隠れているコントロール画像を探して選択します。</p> <p>「Ctrl」キーの機能：隠れた画像の選択</p> <p>「Ctrl」キーを使ってグループ化されたコントロール画像の 1 つを選択する事が可能です。この機能は隠れた画像を選択する際とても重要なファンクションとなります。</p> <p>グループ化された右側のブルーのライトの上にマウスを動かし「Ctrl」キーを押して離します。そのままマウスを動かすとグループを構成するコントロールの上でのハイライト表示を確認できます。このようにクリックしなくとも移動した直下のコントロールがハイライトされる状態をホバリングと呼びます。</p> <p>この操作のままハイライトしたコントロールをクリックすると、グループ内のコントロールの 1 つを容易に選択することができます。この機能は重要な機能で、隠れている画像を選択する時や、選択を解除する場合にも役立ちます。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>21:18-22:37</p>	<p>例としてゲージ画像をブルーのライトの下までドラッグして完全に隠れるような位置へ移動します。グループ選択と同様にキャンバス上でドラッグの機能を使って、この隠れたゲージ・コントロールを選択することも可能ですが、これからは「Ctrl」キーを使用したもっと優れた方法を紹介します。</p> <p>画像と操作を判り易くするため、グループ化されているコントロール画像のページの背景を透明にします。それにはまずグループ化されている画像の上でクリックします。次に左側のプロパティで「Background」「Transparent」を選択します。</p>
 <p>22:38-23:15</p>	<p>「Ctrl」キーの機能：直下画像の選択無視</p> <p>ブルーのライトの上にマウスを合わせます。このままではグループの後ろに隠れたゲージを選択することはできません。</p> <p>「Ctrl」キーを押します。ホバリング状態になり、ブルーのライトが選択できるようになります。次にそのまもう一度そこで「Ctrl」キーを押します。ブルーのライトの選択が解除され、下に隠れていたゲージが出てきて選択できるようになりました。このままクリックすると隠れたゲージを選択できます。</p> <p>ホバリング状態では以下の動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「Ctrl」キーでマウスの下にあるコントロールを無視します。 ● 「Shift」キーまたは「Esc」キーでコントロールを元の状態に戻します。
	<p>6.6.13. 編集モードとランモード</p> <p>編集モードとランモードの違いを確認するため、画面下のコントロール画像のツールバーで「Check Box (Simple)」をクリックします。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 	<p>注意:編集モードではチェックボックスにチェックを入れる事はできませんが「Value」のプロパティを「1」に設定してチェック状態にすることは可能です。ランモードではチェックボックスにチェックを入れる事ができます。</p> <p>編集モードとは？ デザイナーや開発者が操作用ページを作成するモード。</p> <p>ランモードとは？ オペレーターやエンドユーザーがページを利用するモード。</p> <p>編集モードからランモードへ ツールバーの緑の矢印「」 (Enter Run Mode)をクリックします。</p> <p>ランモードでズームイン・ズームアウト 画面左上のズームキーを使ってズームイン/アウトができます。</p> <p>ランモードから編集モードへ WebView 画面左上ツールバーで「」 (Exit Run Mode)をクリックするか、その上のメニューバーで「Page」「Exit Run Mode」を選択して戻ります。ショートカットの「Ctrl+Shift+R」のキーでも戻ることができます。</p>
 	<p>6.6.14. 2つのランモードオプション</p> <p>画面上のメニューバーで「Page」メニューから「Run Mode Options」を選択して「Use Kiosk View」と「Show Page Info」の両方にチェックマークを入れます。</p> <p>キヨスクモード 「Ctrl+Shift+R」のキーでランモード画面に移行します。こちらでは編集モードで表示されていたツールバーやメニューバーなどの表示がありません。このモードをセットする事により、デザイナーはページが利用される時、どのように表示されるかを確認する事ができます。</p>

ビデオ画面（時間）	解説
 <p>24:51-26:38</p>	<p>ショートカットキー「Ctrl+Shift+R」を入力して編集モードに戻ります。このショートカットキーを利用して、自由にランモードと編集モードを行き来できます。</p>
 <p>26:39-28:06</p>  <p>28:20-28:41</p>	<h3>6.6.15. 情報アイコンページ</h3> <p>情報アイコンページは、WebView のビデオの説明では「Show Page Information Icon」として紹介されています。</p> <p>注意：現在利用しているクラウド上のデモでは Show Page Info が利用できる設定になっていないため、ローカルホストの編集モードに切り替えて説明を続けます。</p> <p>この機能を利用するためには、Cogent DataHub プロパティのメニューから表示できる、WebView のスタートオプション（DataHub WebView 設定）で、「情報アイコンページを表示」にチェックすることで設定できます。</p> <p>「情報アイコンページを表示」を設定した後は、WebView 画面を再起動してログインし直します。</p> <p>編集モードの画面の左上に「i」マークのアイコンが見られます。この「i」マークのアイコンをクリックすると、オーナー（作者）の情報、ファイル名、最終保存時刻などの情報がポップアップ表示されます。再び「i」マーク・アイコンをクリックしてポップアップを閉じます。</p> <p>「情報アイコンページを表示」にチェックを入れただけでは、情報アイコンページは編集モードでだけしか表示されません。ランモードで表示するには、メニューバーで「Page」「Run Mode Options」で「Use Kiosk View」と「Show Page Info」の両方にチェックマークを入れます。「Ctrl+Shift+R」のキーでランモードに切り替えると、画面左上に「i」マーク・アイコンが表示されているのが確認できます。</p>